

# 令和4年 第9回総務経済常任委員会会議録

令和4年5月19日 議員控室

## ○事 件

所管課報告事項

(1) 熊石地域コンブ養殖試験事業について (産業課)

## ○出席委員 (8名)

委員長	安 藤 辰 行 君	副委員長	牧 野 仁 君
	横 田 喜世志 君		大久保 建 一 君
	関 口 正 博 君		倉 地 清 子 君
	宮 本 雅 晴 君		三 澤 公 雄 君

## ○欠席委員 (0名)

## ○出席委員外議員 (2名)

議長	千 葉 隆 君		赤 井 睦 美 君
----	---------	--	-----------

## ○出席説明員 (3名)

産業課長	吉 田 一 久 君	水産技術主幹	田 畑 司 男 君
	黒 丸 勤 君		

## ○出席事務局職員

事務局次長	成 田 真 介 君
-------	-----------

[開会 午前9時29分]

### ◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（安藤辰行君） それではこれより総務常任委員会を開催いたします。

委員長挨拶は割愛させていただいて、早速報告事項に入っていきたいと思います。

### 【産業課職員入室】

### ◎ 所管課報告事項

○委員長（安藤辰行君） 産業課からよろしくお願ひいたします。

○産業課長（吉田一久君） 委員長、産業課長。

○委員長（安藤辰行君） 産業課長。

○産業課長（吉田一久君） 本日は、このように臨時委員会の開催をさせていただきましてありがとうございます。

私のほうから常任委員会報告ということで、熊石地域のコンブ養殖試験事業ということでご報告させていただきたいと思います。その前に、お手元の資料が日付6月と書いているかもしれませんが、5月の間違えでございますので、修正をお願いいたします。

この資料に基づきましてご報告いたしますが、熊石地域のコンブ養殖試験事業ということで、この事業につきましては、地球温暖化の問題に地域レベルで貢献するというところで、2050年までの二酸化炭素排出量、実質ゼロを目指す、ゼロカーボンシティ八雲ということで、先般、町長からも宣言がございましたが、これの取り組みの一環ということもありまして、海洋生態系による炭素貯留、いわゆるブルーカーボン、これを推進するというところで漁業者によります、ホソメ昆布の養殖、並びにこの養殖に用いるホソメコンブの種苗糸の生産、これ●●を行っていききたいということで考えてございます。

今、申し上げましたとおり、このホソメコンブ、海面での養殖の部分と種苗糸生産の部分の二つに分かれますが、ホソメコンブの海面の養殖については、熊石地域の相沼泊川磯廻部会のほうに事業のご協力をいただきながら進めていきたいと考えているところでございます。

それでホソメコンブの養殖試験、この事業の規模ですが、これロープに垂下するタイプのコンブの養殖試験で、養殖用ロープについては延長350mということで、場所は相沼漁港内に200m、それから泊川漁港内に150mのコンブ養殖施設を設けまして、まずは試験を始めたいと考えているところでございます。

一応、資料にもございますとおり、予定の生産量でございますが、約6.6t、この数量については、檜山水産普及事業所さんの餌料用昆布の成長試験等のデータを用いたもので、これはあくまでも予定生産量ということでございます。

本試験につきましては、こういった効果測定も実施していききたいと考えているところでございます。なお、この予定生産量から求められますCO<sub>2</sub>の固定量については、この質重

量からそれぞれ係数等かけまして、おおよそ2 t程度の二酸化炭素の固定量になるのではないかと考えています。

また養殖試験に用います、昆布種苗糸の生産については、熊石漁港内にございます、水産試験研究施設で、海洋深層水等も活用しながらこの養殖試験に用いる種苗糸の生産をしていきたいと考えてございます。

あくまでも既存の施設の中での対応ということで、ホソメ昆布の種苗糸は300mが最大なのかなということで、これをまず試験的に作ってみたいと考えているところでございます。

また、これらにかかります事業費ですが、おおよそ170万程度を予定してございまして、これは事業としては、令和4年度から令和8年度の5か年ということで計画し、実施していきたいと考えているところでございます。

なお、この事業費については、このあとの第2回定例会のほうに補正案件ということで提出させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

この昆布の養殖試験事業についての報告については以上でございます。よろしくお願いたします。

○委員長（安藤辰行君） ありがとうございます。

このことについてご質問はございせんか。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（安藤辰行君） 倉地さん。

○委員（倉地清子君） すごく初歩的なのとか素人質問ですみません。

ホソメコンブって、昆布っていっぱい種類ある中のこれを選んでいるのは何か理由があるのかなって。それを教えてください。

○産業課長（吉田一久君） 委員長、産業課長。

○委員長（安藤辰行君） 産業課長。

○産業課長（吉田一久君） このホソメコンブ、一般的に昆布等の養殖をされていると思いますが、ホソメコンブは道南地域に一般的に生息する昆布ということと、また今回の養殖試験である程度の昆布の生産が見られた際には、この昆布は磯廻部会さんがウニの中間育成をしております、そちらの事業用に回そうということも含めてのこととございまして、そういった意味合いから、やはり生息適地、一番適した品種ということで、ホソメコンブをまずは選定してやっていきたいということでございます。

○委員長（安藤辰行君） ほかに。ありませんか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（安藤辰行君） 関口さん。

○委員（関口正博君） 当初、湾内でのことということですが、これは5年間行われるということで、生産量を増やすという判断になったときには、●●の部分での養殖ということも可能性として考えているんでしょうか。

○産業課長（吉田一久君） 委員長、産業課長。

○委員長（安藤辰行君） 産業課長。

○産業課長（吉田一久君） まずは、この試験について、海面での昆布養殖というのは多分一般的に種苗種を南茅部やいろんなところで作っているの、そういったところから入手

することによって、通常ある程度の生産を見込めると思うんですけども、まずはこの水産試験研究施設の中でこれらの種苗糸の生産を行って、それを活用してもらおうということも含めての試験と考えています。

この5年間の間、当面は350mということでの港内での養殖試験を考えておりますけれども、最終的に漁業者さんからもそういった意向がございましたら、外海での生産ということで、そういったことでブルーカーボンの推進、あるいは今のウニ養殖の推進、そういったことで漁業所得の向上にも合わせて繋がるようなかたちになればということも含めて、そういったものはまだ期待のところでございますが、そういったことも見つめながら進めていきたいと考えているところでございます。

○委員長（安藤辰行君） ほかに。

なければこれで終わりたいと思います。

○産業課長（吉田一久君） あともう一点、私のほうからよろしいでしょうか。

○委員長（安藤辰行君） はい。

○産業課長（吉田一久君） 先般、熊石地域のサーモンの水揚げのほう5月12日に行いました。新聞等でもご存知かと思いますが、一応その内容について簡単にご報告させていただきたいと思います。

5月12日なんですけれども、20mの円形サークルにおおよそ4千尾程度いれまして生育してまいりました。12日に水揚げした結果ですが、総数としては3,506尾、重量にして11,796kg、おおよそ11.8tほどの水揚げがありました。平均重量としては単純に割り返して3.36というような平均重量でして、これは前年度と比較して0.36増加してございます。また、最大重量のものについても5.15kgでございます。ただし3,500尾、1匹ずつ計測したわけではございませんで、全体のおおよそ4分の1程度の900尾程度1尾ずつ計測した中での最大の5.15ということでございます。またあわせて3kg以上のものについては全体900尾のうちの75.8%が3kg以上、なお、また4kg以上のものはさらに20%ということでございます。通常例年1.5kg以上が出荷サイズということで抑えてございまして、これについては全体の3,500尾のうち97.8%程度が1.5kg以上ということで、ほとんど規格外のすたれたものは2.2%しかなかったと。3週目にしては規模も拡大したんですけども、そういった中では良好な成績を得ることができたのかなと思ってございます。

なお、このあと落部のほう6月の中旬くらいに水揚げを計画してございますので、落部のほうの数量もまとまった際には、改めましてご報告させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

○委員長（安藤辰行君） それではありがとうございます。

○議長（千葉 隆君） いくらで売ってるの。

○産業課長（吉田一久君） まだ金額は分かりません。

○議長（千葉 隆君） 金額分からないのに売ってんの。

○産業課長（吉田一久君） 今、二海サーモンの協議会という部分で、その中で協議会のメンバーに長谷川水産があるんですけども、そちらにほぼ全量の出荷になるんですけども、いろんなところに仕向けながら最終的に魚の価格になるのかなという形になると思

ます。前回はそういったかたちの中で前回はキロ 400 円だったんですけども、今回は相場的にまだまだ高い値段で置いていると聞いております。

今第一弾として動いたのが全道のイオンでの販売ということでございまして、それ以外にもふるさと納税もあったり、ほかの販売の部分もあると思いますので、そういったものがある程度見えた段階で金額いくらってなると思います。

○委員（三澤公雄君） そしたら熊石の即売会で売ったときの値段はどうやってきめたの。

○産業課長（吉田一久君） 熊石の即売会の値段については、前回キロおおよそ 800 円、昨年度。それで今年の相場の状況を見ますと円安の影響もありまして、だいたい 1,000～1,200 円という数字もありましたが、これについては部会さんのほうともご相談して、だいたいキロ 1,000 円くらいでどうだということによって価格を設定させていただきました。

それで、大中小の 3 区分にしましたが、おおよそだいたい 1,000 円くらいになるかたちで、そういった中で販売をさせていただきました。

○委員（三澤公雄君） （聞き取り不能）

○産業課長（吉田一久君） そうです、先ほど 900 尾 1 尾ずつ重量を測りましたので、それから小計販売向けに 3 区分に仕分けたということです。

○委員（牧野 仁君） 去年より金額が上がったって。

○委員長（安藤辰行君） 大きいよね。

○産業課長（吉田一久君） そうですね、全体として昨年から見るとやはり大きい。これは確かに養殖期間も若干長いので 11 月 6 日に始まったということもありまして、若干養殖機関が長いのもありますし、生簀の計上も影響している気もしてございます。やはり四角い生簀だとデッドスペース、無駄な部分ができるので、その部分から見たらやはり養殖にて規定しているのかなど。ただ、どうしても大きい生簀から水揚げする際に小さい生簀に移したんですけども、その辺の作業については、部会の方々も慣れていないということもございましたし、また今年珍しく網のほうに昆布が大量に付着してその辺の作業性も悪かったということもございまして、大変苦労しながら水揚げしたところですけども、この辺については次年度以降に改良できるものは改良したり、いろいろ工夫して進めていけたらなと思います。

○委員長（安藤辰行君） ありがとうございます。

○委員（三澤公雄君） その昆布が付着したというのは、この養殖試験に利用できたのではないか。なぜ付着したのかというのが。

○産業課長（吉田一久君） 多分、何年かに 1 回、昆布が大量する年にぶつかったというのが一つと、もう一つは網にはそういった海藻がつかないように特殊な塗料を塗るんですけども、それが悪かったのかなど。そういったものも重なったと思います。実際に今回、水揚げ終了後に網を全部上げて、それについていた付着した昆布は●●で拾って相沼・泊川のウニの中間育成の餌に回していたので、一応活用を無駄にはしないようにしたところですよ。

○委員（三澤公雄君） そしたら育つんだね。わかりました。

○委員長（安藤辰行君） わかりました。ありがとうございます。

【産業課職員退室】

## ◎ その他

○委員長（安藤辰行君） それでは、その他で事務局から。

○議会事務局次長（成田真介君） 新幹線対策土受入地の現地視察ということで、新幹線推進室とスケジュールを調整しまして、令和4年6月23日木曜日の午後からになりますが、この日程でよろしいでしょうか。

（「はい」という声あり）

○議会事務局次長（成田真介君） 行程は2ページ目にあるとおりに進めたいと思います。

当日は作業服、長靴持参ですけれども、詳細がわかりましたら改めて通知して、そこで出欠を行いたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○委員（大久保健一君） 何時から。

○議会事務局次長（成田真介君） 13時30分役場を出発して、受入地を見学して4時半ごろには役場に戻ると。

○委員長（安藤辰行君） あとはその他にないですか。

○議会事務局次長（成田真介君） 三澤さん。

○委員（三澤公雄君） このことで質問。鉛川の受入地区のそばに人住んでるんだよね。民家。そういうところお話を伺うのは無理なんですか。

○議会事務局次長（成田真介君） 多分、機構も同行しますので、そこでいろいろ質問してもらえたら。

○委員（三澤公雄君） 機構に聞けばいいか。わかった。

○議会事務局次長（成田真介君） 次回の常任委員会ですけれども、今のところ予定では定例会会期中の中日の6月8日を予定しております。

○委員（大久保健一君） 対策土の話で、最新データってもらえるんだろうか。

○議会事務局次長（成田真介君） その辺は推進室に前もってお願いしておきます。

○委員長（安藤辰行君） あとはその他ありませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（安藤辰行君） それではこれをもちまして終わりたいと思います。

〔閉会 午前9時45分〕